

感 染 症 週 報

島しょ保健所八丈出張所管内感染症発生動向調査

管内 第5週

(1月27日 ~ 2月2日)

東京都感染症週報 より抜粋

第4週

(1月20日 ~ 1月26日)

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/>

東京都インフルエンザ情報

第18号

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/assets/flu/2024/Vol27No18.pdf>



東京都島しょ保健所八丈出張所

〒100-1511

東京都八丈島八丈町三根1950番地2

TEL : 04996 - 2 - 1291

FAX : 04996 - 2 - 0632

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/tousyo/hachijou/index.html>

感 染 症 週 報

八丈出張所管内の感染症流行情報

(八丈町・青ヶ島村)

第5週 (1/27～2/2) 八丈出張所管内 COVID-19 3件(内青ヶ島村2件)

新型コロナウイルス感染症にご注意ください

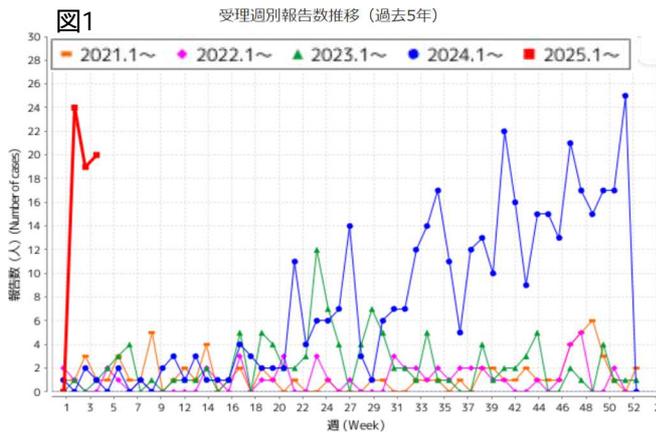
八丈出張所管内で第5週に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）報告が3件（前週5件）ありました。東京都全体ではCOVID-19の定点当たりの報告数は第4週で3.50人（前週2.89人）で今後の動向に注意が必要です。

東京都全体では伝染性紅斑の定点当たりの報告数が第4週で2.28人（前週2.32人）高値であり、**警報レベル**が続いています。

東京都全体ではインフルエンザの定点当たりの報告数は第4週（1/20～1/26日）で6.60人（前週10.28人）と警報基準を下回りました。

ひとくち感染症情報『百日咳』

図1は東京都の2021年から2025年1月まで、過去5年間の百日咳の届け出数になります。昨年末から今年にかけて増加傾向がみられており今後の動向に注意が必要です。年代別で見ると（図2）昨年と同様に乳幼児期の予防接種の効果が減弱した10代の発病が最も多くみられます。



1 百日咳とは

百日咳は、百日咳菌による感染症です。一年を通じて発生がみられますが、近年、乳幼児期の予防接種の効果が減弱した成人の発病が問題になっています。

2 原因と感染経路

病原体は百日咳菌（*Bordetella pertussis*）です。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します（飛まつ感染）。

3 症状

7～10日程度の潜伏期間を経て、風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなっていきます（カタル期：約2週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（痙咳期：約2～3週間）。激しい咳は徐々におさまりますが、時折、発作性の咳がみられます（回復期：2～3週間）。乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い疾患です。成人では、咳は長期間続きますが、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れることがあります。

4 治療

治療には、マクロライド系抗菌薬を使用します。

5 予防のポイント

有効な予防法は予防接種です。予防接種法に基づく定期予防接種が行われています。予防接種による免疫効果の持続は5～10年程度です。軽症でも菌の排出はあるため、予防接種をしていない新生児・乳児がいる場合は、感染に対する注意が必要です。

詳しくは：東京都感染症情報センター 「百日咳」

八丈出張所管内患者報告数 推移グラフ (No.3) 令和7年第5週

